

- 佐倉市では、令和元年の台風15・19号の影響により、森林の風倒木や土砂崩れによる大規模停電、交通網の遮断といった甚大な被害を被ったことから、今後、同様の被害が発生しないよう、災害に強い森林づくりが課題となっている。
- このため、風倒被害が発生する可能性の高い森林の状況を把握するとともに、災害に強い森林となるような整備を進めていく取り組みを実施。

## 事業内容

### 災害に強い森林整備

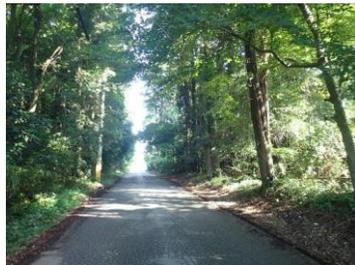
令和4年度に、災害に強い森林環境整備を進めていくことを目的に作成した「森林環境状況調査報告書」に記載されている15箇所の森林のうち、最も森林整備の重要度の高い森林の環境整備を実施する。

【事業費】19,250千円（全額譲与税）

【実績】市内南部地域にある直弥区・上別所区のインフラ施設周辺の森林約5haの追跡調査（地権者同意）及び伐採・搬出・伐採跡地への植栽の森林環境整備を実施した。

## 取組の背景

- ・令和元年の大型台風（強風）により、主要幹線道路沿いにある森林の風倒木による電線の切断（大規模停電）や、道路が遮断される被害が発生し、市民の日常生活に支障を及ぼした。
- ・大型台風等による被害を繰り返さないよう、森林の状況把握や風倒の危険性の高い森林の整備を行う。



（整備前）



（整備後）



（看板設置）

## 工夫・留意した点

- ・市には、林務専門職員がいないため、千葉県森林経営管理協議会や千葉県森林組合等と相談のうえ、仕様書や設計書の作成、伐採区域等を選定した。
- ・森林所有者からの同意（伐採木の所有権放棄含む）を得るため、戸別訪問等を実施した。
- ・伐採後は、景観に配慮し中低木のヤマアジサイやコナラを植栽し、風倒被害の再発防止に努めた。

## 取組の効果

- ・インフラ施設周辺の森林整備を実施することで、台風等の自然災害による倒木による交通障害等被害の未然防止が図られるとともに、事業PR効果により未整備森林の解消が図られる。
- ・森林環境譲与税を活用した森林整備である旨を明示した看板を設置したことにより、地域住民等に対して、森林整備の必要性等の周知・啓発が図られる。

## 基礎データ

①令和4年度譲与額：20,180千円	②私有林人工林面積（※1）：623ha
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：168,743人
	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 佐倉市では、佐倉里山自然公園内畔田谷津において、散策路に倒木の恐れのある樹木が散見されることから、市民利用のある里山の安全性を確保しつつ、谷津の機能を維持することが課題となっている。
- ▶ このため、谷津斜面林における樹木の状態確認並びに危険箇所等の把握に努め、散策に訪れる人々の安全を確保する取組を実施。

## 事業内容

### 畔田谷津斜面林整備事業

佐倉市下志津地先畔田谷津において、斜面林にて放置され傾斜した樹木や、市民の通行のある観察路沿いの倒木・落枝の危険のある樹木を伐採・剪定する

【事業費】863千円（うち譲与税863千円）

【実績】観察路沿いの倒木・落枝の危険のある樹木の伐採を実施した。

## 取組の背景

- ・畔田谷津は、市民協働による里山保全事業によって整備されており、生物多様性の豊かな場として、自然観察や散策に利用されている。
- ・散策路において、枯木等の倒木や落枝の危険のある樹木が点在している。



（伐採前）



（伐採後）

## 工夫・留意した点

- ・現地確認をもとに、専門的知識を有している造園業者からのアドバイス等を参考にしながら、仕様書や設計書の作成、伐採等樹木の選定を行った。
- ・散策路に支障のない伐採手法や発生材の残置方法について、委託業者との打合せを実施した。

## 取組の効果

- ・来訪者の安全確保並びに倒木被害の未然防止を図ることができた。
- ・枯木等の間伐により、更新による斜面林の機能の維持・再生が期待できる。
- ・間伐によって、斜面林から散策路にかけて日当たりや見通しが良くなり、市民利用のある里山として良好な環境を創出することができた。

## 基礎データ

①令和6年度譲与額：22,427千円		②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：168,743人	⑤林業就業者数（※2）：4人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 佐倉市では、「いやしの里山・清水台」の樹林において、多様な林床植物が生育する里山林としての機能を再生させ、生物多様性の向上を図るとともに、市民の憩いの場を創出することが課題となっている。
- ▶ このため、土地内における樹木の状態確認並びに危険箇所等の把握に努め、散策に訪れる人々の安全を確保する取組を実施。

## □ 事業内容

### いやしの里山・清水台樹林整備事業

いやしの里山・清水台の樹林内において、間伐及び市民の通行のある場所の支障木や倒木・落枝の危険のある樹木の伐採・剪定を行う。

【事業費】561千円（うち譲与税561千円）

【実績】樹林内の倒木・落枝の危険のある樹木の伐採を行った。

## □ 取組の背景

- ・いやしの里山・清水台は、多様な林床植物が生育し地下水を涵養する里山林であり、その機能の維持向上が課題となっている。
- ・樹林内には、枯木等の倒木の危険がある樹木が点在している。
- ・住宅地に隣接する里山林であることから、風倒木等による被害を未然に防ぐ必要性が高い。



（伐採前）



（伐採後）

## □ 工夫・留意した点

- ・現地確認をもとに、専門的知識を有している造園業者からのアドバイス等を参考にしながら、仕様書や設計書の作成、伐採等樹木の選定を行った。
- ・住宅地及び道路に隣接する樹林であることから、林床への日当たりに加えて、周囲からの見通し及び風通しを考慮して伐採木を選定した。

## □ 取組の効果

- ・倒木や落枝の危険のある樹木を伐採したことにより、来訪者や周辺施設の安全確保を図ることができた。
- ・間伐により、鬱蒼としていた樹林から、林床に日光が入るようになり、生育植物の多様性の向上が期待できる。
- ・里山林として整備を継続し、森林機能の維持向上に取り組んでいく。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：22,427千円	②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：168,743人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 佐倉市では、佐倉里山自然公園の維持管理を担っている活動団体の高齢化が進行しており、将来の担い手確保が課題となっている。
- ▶ このため、里山管理等の講座やチェーンソー等の実習等を通じた人材育成の取組として佐倉里山大学の運営を実施。

## □ 事業内容

### 佐倉里山大学運営等業務委託

「佐倉里山自然公園整備基本構想」及び「佐倉里山自然公園グリーンインフラアクションプラン」に基づき、佐倉里山自然公園を拠点とした維持管理を担う人材育成を目的として、佐倉里山大学を運営する。

【事業費】 1,450千円（うち譲与税1,450千円）

#### 【実績】

座学講座の実施 全4回（刈払機取扱作業安全衛生教育を含む。）

実技講習の実施 全4回

## □ 取組の背景

- ・かつては、農林業が営まれる中で里山や谷津などの自然環境は維持・保全されてきたが、現代では生活様式の変化により、管理を放棄された里山が増え、景観の悪化や竹林の拡大などの様々な課題を抱えている。これまでは里山の維持管理を担っていた市民団体も数多くあったが、高齢化により、将来の担い手確保が課題となっていた。



（座学の様子）



（教育講習の様子）



（伐木玉切りの様子）

## □ 工夫・留意した点

- ・刈払機を使用する作業の安全を確保し、かつ、刈払機取扱作業員に対する振動障害を防止するため、当該作業に従事する者に対し、千葉県森林組合による教育講習を実施した。
- ・伐木のしくみやチェーンソーの危険性について、専門家を講師に招き、チェーンソーを使用した樹木処理の体験会を実施した。

## □ 取組の効果

- ・佐倉里山大学を運営し、里山の維持管理を担う人材を育成することにより、活動団体の世代交代を促進し、また、里山の維持管理に関わり、身体を動かすことにより、心身の健康の推進やウェルビーイングの向上が図られる。
- ・里山大学を受講した後には、地域に根付き、リーダー的な存在として、各地域の森林等の里山保全に取り組んでいく。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：22,427千円	②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：168,743人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 佐倉市では、佐倉里山自然公園の維持管理を担っている活動団体の高齢化が進行しており、将来の担い手確保が課題となっている。
- ▶ このため、里山管理等の講座やチェーンソー等の実習等を通じた人材育成の取組として佐倉里山大学の運営に必要な備品を購入。

## 事業内容

### 佐倉里山大学運営備品購入

佐倉里山大学の運営に必要な、チェーンソーや刈払機などの備品を購入する。

【事業費】1,500千円（うち譲与税1,500千円）

【実績】刈払機（バッテリー式）5台、刈払機（ガソリン式）3台、チェーンソー（バッテリー式）3台、チェーンソー（ガソリン式）3台、バッテリー（刈払機用）8台、バッテリー（チェーンソー用）6台、充電器（刈払機用）5台、充電器（チェーンソー用）3台、ポータブル電源 1台、備品用物置 2基、給水タンク1基、バケツ 3個

## 取組の背景

- ・かつては、農林業が営まれる中で里山や谷津などの自然環境は維持・保全されてきたが、現代では生活様式の変化により、管理を放棄された里山が増え、景観の悪化や竹林の拡大などの様々な課題を抱えている。これまでは里山の維持管理を担っていた市民団体も数多くあったが、高齢化により、将来の担い手確保が課題となっていた。



（刈払機）



（チェーンソー）



（備品用物置）

## 工夫・留意した点

- ・購入した備品を里山大学の実習のみで使用するのではなく、里山大学の現役生が実習以外での練習や佐倉里山自然公園等での作業に使用できるように、貸出制度を創設した。
- ・また、令和8年度以降、森林環境譲与税を活用して、里山大学の卒業生に佐倉里山自然公園等で除草作業等を行ってもらうことを想定していることから、卒業生が実際の作業にも活用できるような機材を購入した。

## 取組の効果

- ・佐倉里山大学を運営し、里山の維持管理を担う人材を育成することにより、活動団体の世代交代を促進し、また、里山の維持管理に関わり、身体を動かすことにより、心身の健康の推進やウェルビーイングの向上が図られる。
- ・里山大学を受講した後には、地域に根付き、リーダー的な存在として、各地域の森林等の里山保全に取り組んでいく。

## 基礎データ

①令和6年度譲与額：22,427千円	②私有林人工林面積（※1）：623ha	
③林野率（※1）：18.1%	④人口（※2）：168,743人	⑤林業就業者数（※2）：4人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より